

2025年  
2月号No.14

# サルビア訪問リハビリ新聞

発行日：令和7年2月1日 発行者：医療法人社団英世会 介護老人保健施設サルビア  
〒191-0024 東京都日野市万願寺1-18-1 TEL042-589-3270 FAX042-589-3271



## 高幡不動尊金剛寺

### 令和六年を振り返って

令和六年も無事に訪問リハビリを行う事ができました。先日は高幡不動尊にて今年の交通安全を祈願してきました。

去年を振り返ってみると、皆さんと元気にリハビリを行い、沢山のお話もしました。その中で印象に残った内容を一つ取り上げさせてもらいます。九十代の女性の方に、「どうすれば幸せに年を取れますか」と聞いたところ少し悩み「人の言う事を聞く事」と返答されました。



言う事を聞きなさい。なんだか私や妻が子供に言っている言葉のように感じますが、確かにと感じる内容でした。多くの方は相手の事を思い、必要な事を言ってくれています。それを聞き入れると、またその方から気にかけてもらえます。勿論全ての言われたことを受け入れるとは言いませんが、言う事を聞く方が周りの方から気にかけてもらえ幸せになれるのかなと感じました。今年も皆さんとどのようなお話ができるか楽しみです。





## 認知症の支援について

先日、全国老人保健施設協会が行ったりハビリテーション研修会に参加しました。内容は医療介護連携や他職種協働等の内容、また生活に根差した認知症の支援でした。認知症の研修では認知症の基本から施設での取り組み等があり、その一つで家族の支援という内容がありました。家族支援にも様々なものがありました。印象に残ったものとして家族も認知症について学ぶために参考書を貸し出せるようにしている施設があるというものです。その施設が実際に用意している本を一冊紹介させてもらいます。

「ああ認知症家族」という本

です。内容は著者が実際に母親を介護した体験や、認知症家族会通过して行政と関り、どのように社会が変化したのか。そのような経験を経て希望への道筋とは何かを描いた作品です。

その中で印象に残った内容としては、著者の介護体験の中で一場面です。当時は介護保険制度が無く家政婦を雇う等、大変な様子が書かれていました。また介護と出産が重なり、一時母親を病院に預けなければいけない場面がありました。

【「おかあちゃん、ここでしばらく暮らしてくるか」と聞くと、母は「うん」と答えます。わかっていいのかいないのか：、なにかかわいそうな気持ちが見上げてきます。「赤ちゃんが生まれたら、また迎えに来るかだね」と、何度も母に言いました。母は辛そうな表情も、さびしそうな様子も見せません。まったく平静です。それがかえって、分かって耐えてくれているように思えて、不憫でした】自宅で見る大変さはあるものの様々な感情を抱えながら介護をしている様子が伝わります。

私自身、訪問リハビリの仕事を行っています。実際に親を介護した経験はありません。自分の知識や今までの経験の中で支援を行っているっており、今でも家族の方にどのような言葉掛けや支援が最善かと悩む事もあります。これからも皆さんに寄り添った支援を行い、微力ではありますが少しでもより良い方向へと進むよう取り組んでいきたいと考えています。皆さんも何かあれば些細な事でも相談していただければと思います。またこの本に興味を持った際は、声を掛けてください。



## 編集部員のつづやき

人生には三つの坂がある。上り坂、下り坂、まさかである。令和六年、まさか大谷翔平がロサンゼルスドジャースに移籍後一年目からワールドシリーズを制覇するとは。

感情には三つの槍（やり）がある。なげやり、ぼんやり、おもいやり。この年になり、もうお年玉は貰える事はないものの、多くのおもいやりを頂いた。令和七年も私が必要とされる範囲で、そして自分が手を伸ばせる範囲でおもいやりを持ちながら日々過ごしていきたい。

